

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092300088		
法人名	社会福祉法人 南八女福祉会		
事業所名	グループホーム 春の山		
所在地	福岡県八女市上陽町北川内182-1		
自己評価作成日	平成28年11月25日	評価結果確定日	平成29年1月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成28年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

グループホーム春の山では、毎日笑って過ごせるようにと考えて支援している。職員だけで支援するのではなく、家族、地域の方、主治医など、その方に関係する方と連携してみんなが支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

八女市上陽町の「グループホーム春の山」は、平屋建ての2ユニット型事業所で、周囲を山と川に囲まれた自然豊かな立地にあり、事業所名は目の前にある春の山公園から名付けられた。母体法人は近隣に在宅サービスやグループホームなども運営しており、系列内での情報共有や、法人全体での年4回の研修などにも取り組んでいる。開設時から地域との関係も良好で、今年からは地元小学校との交流も始まり入居者にも非常に喜ばれた。最期をここで、と希望される方も増えており、限られた時間を笑って過ごしてほしいとの思いで、日々のケアに心を配っている。調査時も和やかな雰囲気の中でゆったりとした時間が流れていた。施設内はユニット間で行き来のしやすい造りで、入居者同士の関わりも多く、回遊式の屋内を散歩したり、会話なども楽しんでいる。外部評価での取り組みも積極的に、改善意識も高い。管理者への信頼も厚く、これからも地域を支える事業所としての活躍が大いに期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果		外部評価				
自己	外部	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況			
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝各ユニットでミーティング後、その日の出勤者で理念の唱和をして意識付けし、実践につなげている。	開設時に立ち上げ時のメンバーで作った理念と、法人の理念があり、いつもは事業所理念を唱和している。所内の掲示と、名札の裏にもいれており、「～意向に沿った生活の支援～」と理念にある一文から、職員もそれに則して本人本位のケアの提案をするようになった。話し合いでも職員の都合で考えないように、その都度注意している。		新年度から事業所の目標を新たに定めるように話し合い、年間を通して取り組み、達成状況の見直しが行なわれるよう計画的な運用が始まることに期待したい。3ヶ月や半年の短期での見直し期間も設けたらよいのではないだろうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	日常的な交流は少ない。 上陽校区福祉会のメンバーになったことで、上陽町の活動が少しずつわかってきた。	職員の家族の関わりをきっかけに今年から小学校との交流が始まり、昔の遊びを一緒にする企画に入居者と共に取り組んだ。社協の紹介で福祉会のメンバーになり、会議にも出ており、次年度の福祉の集いから参加を検討している。小中学校でのリサイクル活動にも協力し、近くで開催する土曜日には毎週行っており、地域の方とも顔なじみにもなっている。		今年から始まった小学校との取り組みをきっかけに、事業所にも来てもらう交流やボランティア、職場体験などの取り組みにも発展していくよう、関係が深まっていくことが期待される。また将来的に認知症の啓もう活動や情報発信が行なわれていくことにも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議でホーム内で起きている事、工夫していること等を報告している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。年度末にアンケートを実施し、集計した意見から次年度の内容を決定している。6回中2回は避難訓練を実施。その他、ホーム内を案内しながらグループホームとはどういう所なのかを説明したり、敬老会行事に食事をいれ、そこで入居者と家族、職員が一緒になって食事を食べながら話ができる場をもうけた。	会議内で、取り組みの事例発表などすることもある。敬老会や、避難訓練との同日開催をしており、普段の取り組みを見てもらったり、訓練協力もしてもらった。年1回の事前アンケートによって聞き取った希望から、開催日の検討や、勉強会、写真のスライドショーなどに反映させた。市職員、地域包括、自治会長など地域からの参加や、行事と同日開催することで家族、入居者の参加も多い。議事録も郵送によって全員に報告している。会議は活発に運営され、参加者の意見やアドバイスも多い。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、市の担当者も毎回参加していただいている。 地域密着型サービス連携会議に参加し、市や他事業所からアドバイスを受けている。	運営推進会議の参加もあり、何かあった時の連絡や相談はしやすい。2ヶ月ごとに開催される地域密着連携会議に市の担当の参加もあり、その際に空き状況を共有したり、対面での質問なども出来る。入居紹介をうけることもあった。主に管理者が担当し介護申請も窓口まで訪問して行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠せず開放している。 勉強会のテーマに取り入れて、振り返る機会をもうけている。	非常口と正面玄関があるが、施錠はしておらず、自分で出ることが出来る。施設前面が道路で危険なためセンサーを設置しており、見守りや付き添いで管理されている。以前四点柵や車いすベルト利用もあったが、すぐに解消され、今では拘束をせず対応できるようになった。勉強会によってスピーチロックなど拘束行為に関しての理解を進めており、日頃も気になる言動があった時は随時注意している。		

H28自己・外部評価表(GH春の山)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催している。 又、職員が個人的に外部の勉強会に参加している。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	玄関に資料を準備している。 成年後見制度を利用されている方がおられるため学ぶことも多い。	入居前から成年後見制度を利用されている方がおり、対応を通して制度理解を進めている。ほかにも利用検討する方もおり、必要時の提案もされている。外部研修参加もあり、職員も興味をもって自発的に学習している。	外部研修参加後の伝達や資料回覧によってさらに、参加後の意識を高め、全体での制度理解が進められることにも期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に細かく説明を行っている。又、入居中、重要な部分は再度詳しく説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の意見は日頃から記録の特記事項に記入し、すぐ対応できる内容はその日の勤務者で、検討が必要な内容は入居者担当職員を中心に話し合いをしている。家族には、月1回お便りを作成し、日頃の様子を伝えている。又、面会時にも様子を伝え、要望などを尋ねている。	入居者からの意見で、家族の支援が必要なものなどは相談して、いまは一時帰宅に向けて取り組んでいる方もいる。入居者それぞれの個別のお便りを毎月発行しており、医療やその月の状況、行事予定などを報告している。運営推進会議についてのアンケートとは別に満足度調査に関しても現在準備中である。家族参加の行事や運営推進会議での家族参加も多く、その際に意見をもらうこともある。	面会や会議などで要望を聞くことが多いが、細やかな意見を聞き取るためにアンケートや担当者会議時のヒアリングなど
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から会話する機会をもつよう意識している。 管理者と主任・副主任の3名が連携することでたくさんの意見をひろいあげるよう努力している。	毎月の定例会議があり、勉強会のあとにミーティングを行っている。基本的には正社員で行い、パート職員は意見があるときは申し送っている。プランの見直し月にはカンファレンスも行い、全体での情報を共有する。直近では看取り希望の方が増えてきた件に関して、研修や対応の話し合い、職員アンケートなどもとられた。定期的な面談の機会もあり、管理者との個別の相談もしやすい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者から日頃の職員の様子を聞き取っている。又、直接話す機会も設けている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢、性別、資格による排除は行っていない。管理者は、職員の様子を代表者へ報告、相談している。	20～60歳代までの年代の職員がおり、男女比で3:7程度で配置されている。定期的な研修参加の機会も多く、法人研修として外部講師に来てもらうことも年4回程度あり、無資格での入職後に資格取得する職員もいる。休憩時間の確保や休憩室もあり、メリハリをつけた勤務がされている。職員も能力や特技を活かして業務につなげている。	

H28自己・外部評価表(GH春の山)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	勉強会を開催している。	事業所単体での内部研修の年間計画の中で人権・個人情報・倫理に関して取り上げており、今年度は年明けの2月に予定されている。毎月担当者が決まっており、DVDを視聴したり、外部研修の伝達などを行っている。研修案内を共有し、任意で参加されている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ひとりひとり担当業務ももっている。得意なこと、できることで割り振っている。 法人で計画している研修が年4回、これは外部からの講師による研修で詳しい内容を学ぶことができる。毎月の勉強会は、担当職員が中心となり実施している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連携会議や部会の勉強会などに積極的に参加し、交流する機会を増やしている。福岡県介護職員技術向上研修に数名参加し、たくさんの同業者と交流することができた。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、必ず本人と面会して安心した生活をスタートできるようにと準備を進めている。特に、入居前の自宅での生活の様子を聞き取ることを大切にしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や申し込みをされる時から、これまでの様子や家族の悩みなどの聞き取りを行っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族からの話をじっくり聞きながら、必要な支援を担当職員中心となり検討している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中でできることはしていただいている。入居者同士協力しあっている姿もよく見かける。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人は、家族の面会を一番楽しみにしておられることを伝えている。自宅への帰宅などを一緒に考えたり、地域の祭りへの外出につきそわれたりと関わりが多い。		

H28自己・外部評価表(GH春の山)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域密着型といっても八女市は広範囲であるため、入居者それぞれの出身地の行事などを調べ、そこに外出できるようにと少しずつ取り組んでいる。	家族以外にも知人や友人の来訪を受けることもあり、急な来訪でも随時受け入れている。遠方の方でも年に数回訪れ、電話なども頂いている。ドライブで自宅周辺にいたり、今年からそれぞれの出身地のお祭りに参加する取り組みを企画し、家族にも喜ばれた。家族の協力によって地元の敬老会や忘年会など継続して参加される方もいる。以前は一時帰宅もしていたが、高齢になり、来てもらうことも増えてきた。入居前の習慣も大事にし、医師との相談の下晩酌を楽しむ方もいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や生活習慣の違いからトラブルもある。しかし、自然と気の合う仲間ができ、一緒に歩いたり、食事をとられる手伝いをされたりと、入居者同士の関わりが多い。		
24		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も入院中の方への面会を続けている。支援経過記録は契約終了後も記載している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や行動を詳しく記録に残している。計画見直しの時期には、担当者がアセスメントし、その内容を全員で確認している。	入居時は管理者やケアマネが基本情報を聞き取り、その後は入居者ごとに担当職員を決めてアセスメントを行い、計画作成担当者が最後に監修する。昨年からの職員の声で様式を見直して取り組むようになり、細やかな情報の把握につながるようになった。様式は最適なものを目指して随時改善に取り組んでいる。意思疎通の難しい方は家族に聞いたり、職員が反応を見ながら推測して意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、入居時に詳しく聞き取りをしている。家族から直接記入していただく書類もある。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤したらずぐに両ユニットの申し送り簿を各自確認するように徹底している。いつもと違うことは記録の特記事項に詳しく記載している。職員会議では、ひとりひとりの生活等について詳しく話し合っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議では、主治医、訪問歯科、リハビリなど関わりのある職種からも意見をもらっている。その意見も含めてケアプランを作成している。	ケアプランの見直しは6ヶ月ごとに行っており、担当者はアセスメント、モニタリング、家族連絡を受け持つ。プラン実施チェックをしているが、様式は随時見直しており、以前は1ヶ月分を1枚で見えていたが、今は日々の記録の中に入れて込んで一体的に管理している。見直し時の担当者会議では医師などから意見も頂き、実施記録やアセスメント、議事録に残して改善につなげている。	

H28自己・外部評価表(GH春の山)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は詳細に残している。重要な部分は、毎月のモニタリングにも記入している。毎月家族に発行しているお便りを作成する際、ひと月分の記録を全員目を通し、曖昧になっていたり、見落としていたりする部分は、再検討している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	夜勤者からの申し送り後、出勤者全員でミーティングをしている。その中で話し合いができていく。又、大きな課題などは月1回の職員会議で取り上げて話し合っている。生活を重視し、ひとりひとりの意向をよく考えて話し合っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ひとりひとりが出来る事、得意なことを発揮できる機会を多くもち、気持ちよく生活できるよう支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医はこちらから指定はしていない。春の山でできること、できないことを伝えて、迷われる時は、いくつかの選択肢をお伝えしている。	すぐ近隣に提携医がいるため、そこに通院介助しているが、新たに訪問診療が出来る提携医との連携も始めた。外部のかかりつけ医を継続することも可能で、基本的には家族に通院介助してもらい、事業所からの支援も行う。随時家族とも口頭や電話で医療情報を共有し、毎月のお便りで健康状態の報告を書面でしている。必要時には医師から直接家族に連絡してもらうこともある。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員が一番日頃の様子を把握しているため、様子が違うと感じた場合は、いつもの様子とどう違うか報告している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった時に、退院の時期を家族や病院側に相談している。又、病院の担当者と家族とそれぞれに連絡をとりながら連携をとっている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応に係わる指針、看取りに関する指針を整備。各家族に説明し、本人とお話ができる今のうちに話し合ってくださいと伝えている。又、春の山でできることも伝えて、もしもの時のことを考えていただいている。	最期をここで、と希望される方も増えてきて、新たに24時間対応の訪問診療クリニックとの医療連携を交わした。重度化の指針とは別に看取り指針も定め、対応の体制を整えている。最近でもおひとりの方の看取りを行い、これからも希望があれば支援をしていく考えである。事業所内でのターミナルケアに関する研修や外部研修にも積極的に参加しており、情報を共有して今後の支援に備えている。	

H28自己・外部評価表(GH春の山)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回消防署で応急手当普及員資格取得講習会に参加している。又、事例をあげ、急変を発見してからの対応をシュミレーションしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施している。最近では、夜勤帯での地震を想定した訓練を実施した。	運営推進会議との同日開催を基本にしており、消防署にも毎回立ち会ってもらっている。運営推進会議の参加者にそのまま訓練参加もしてもらい、地域からの意見やアドバイスも活発に出されており、意識共有して災害対策に取り組んでいる。地域防災訓練の実施もあり、今回は見学に訪問した。提案から連絡網の見直しを検討されている。AED設置もあり、過去に使用したこともあった。水の備蓄があり、食料品は日々の食材を多めに確保することで対応している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症発症し、わからないこと、できないことが多かった今の状態を知ることも大切だが、これまでの生活歴や性格などを詳しく知ること、敬意を持った対応につなげている。	トイレのドアの締め忘れや声掛けなど、日々のケアで気づいた点に関してはその都度注意をしており、今では改善も進んでいる。入室の際も入居者のプライバシーに配慮してノックしてからの入室を徹底している。お便りや掲示など写真利用に関しては別途同意書を取り交わし、利用の許可を得ている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ひとりひとりの理解力や判断力にあわせて質問の仕方をかえ、こちらで全て決めてしまわないようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全て希望に沿う事は難しいが、ひとりひとりのペースにあわせるように努力している。毎日外を散歩することが楽しみの方は、雨の日以外は散歩に出かけている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選ぶ際も、自分で選ぶことが出来る方は自分で、少々困難な方は、いくつかこちらで選んだ中から決めていただいている。毎朝の洗顔、顔拭き、整髪はひとりひとりの状態にあわせて介助している。外出や行事がある時の身だしなみも大切に考えている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ゲームなどのレクリエーションは、誕生日会の時に実施し、普段は、生活を重視している。生活していくなかで、食事作りや片づけは必要で、できる部分にそれぞれが参加していただいている。皆が大好きなじゃがいもまんじゅう作りは入居者中心に毎月実施している。	メニューは栄養士資格をもった職員が作成し、食材は地元の商店に配達してもらっている。調理も持ち回りで職員が全員で担当し、入居者にも下ごしらえや片付けや皿洗いなど手伝えることは手伝わってもらっている。芋饅頭づくりは毎月定例化しており、調理レクでおやつ作りをすることもある。今年は外食行事としてちゃんぽんやデザートを食べにもいった。	

H28自己・外部評価表(GH春の山)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	持病なども考えながら量を調整している。特別食(糖尿など)の提供はしていない。高齢者は喉の渇きを感じにくく、摂取量も少ないため、こちらから提供する時間を多く設定し、1日の摂取量を増やす工夫をしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。ひとりひとり自分でしている歯磨きの様子を見て、必要な部分の介助を行っている。現在、8名の方が訪問歯科を利用中。口腔ケアを中心に実施。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本としている。時間誘導にこだわらず、排泄チェック表をみて誘導。夜間もトイレでの排泄を基本としている。	入居者それぞれの実施記録の中で、24時間分の排泄チェック表もあり、状況の把握に努めている。パットを使用しても汚染が少なくなれば、パットを外して様子を見たり、負担軽減を働きかける。改善に関しては、気ついた職員が随時申し送りや実施記録などで職員に働きかけて話し合い、すぐに取り組むようにしている。失敗時も自尊心を傷つけないよう注意しながら支援する。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動量、食事、水分摂取量を増やしている。おやつにバナナのジュースなどをとり入れる等、薬以外で出やすくなる工夫をしている。職員が排便についての研修にも参加し理解を深めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴以外に必要時対応をしている。看取り介護では、入浴と清拭を本人希望を毎日確認し、希望に沿って実施している。	基本的には午前から夕方までの対応で、汚染時には随時の入浴も行う。拒まれる方には職員を変えたり、時間帯を変えたりして対応し、少なくとも週3回を確保するようにしている。毎日でも希望があれば対応していたが、状態の低下や職員体制もあり、週3回での対応になっている。皮膚観察や健康管理の場としても役立っている。	本人の意向も含めて、入浴回数の希望を確認し、無理のないよう現実的な対応の可否についての検討がなされることにも期待したい。
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとりひとり昼寝や夜間の就寝時間は異なる。夜間の睡眠を考えてこちらで調整することもある。夜眠れない方は、会話したり暖かい飲み物を提供したりと、眠れないことへのストレスを減らす工夫をしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や薬局にその都度相談している。処方変更時は、薬情報を記録に添付し、全スタッフ把握できるようにしている。状態で調整する薬については、主治医からの指示を記録ボードに貼りつけている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことや趣味を聞き取りし、それを入居後も継続できるようにしている。		

H28自己・外部評価表(GH春の山)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	受診や入浴の都合でその日の希望をその日に叶えることができないこともある。地域密着型といっても八女市は広いので、上陽町になじみが無い方は、なじみのある地域のお祭りなどに外出している。	気候のいい時期を見計らって年に6回程度の外出行事を計画している。日常的にはその日の希望や天候などで気軽に買い物などにドライブしたり、近くの公園に散歩に行ったり、お菓子を買に行ったりもしている。意欲低下している方にも働きかけ、準備をしたうえで無理強い無いように外出の機会をもっている。施設内でもリビングやホールを囲んで外周に沿って回廊できるようにしており、廊下の距離も長く変化もあり、楽しみながら散策されている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全入居者通帳や現金の管理は家族や後見人がされている。少額を自己管理で持たれている方も数名おられ、外出時そこから買い物をされる方もいる。外出時預り金から支払うが、職員がせずに本人にまかせることもある。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は受けることが多い。すぐに忘れるからと面会時に見てもらえるように紙に書いておられる方もいる。品物や手紙が届いたときは電話をすることをすすめている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昼間と夜間の照明の色を調整している(昼間は白、夜間は黄色)臭いがこもらないように換気はこまめに行っている。職員がそれぞれに切り花をもちよって飾ってくれることで明るい雰囲気となっている。	トイレ、リビング、廊下の掃除は毎日するよう心掛け、入居者に手伝ってもらうこともある。和紙調の壁紙やこげ茶の家具は落ち着いた雰囲気を醸し出し、安心感がある。行事の写真掲示なども過度にはせず、ちょっとした変化を与えている。平屋建てで、窓も多く、中庭もあるため日光もよく差し込み明るい。リビングに小上がりの和室もあり、ちょっとした休憩や作業などに活用している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや畳の部屋、廊下のベンチなど、1人で過ごしたり、気の合う方同士で過ごしたりできる場所がある。廊下を毎日歩く練習の場所として活用されている方が多いが、自然と気の合う方同士が一緒に歩かれている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、本人と家族が必要な物を持ち込まれている。新しく購入を考える家族が多いが、使い慣れた物が良いことを説明している。家族写真やお位牌、趣味の絵などを持ち込まれている方もおられる。家族に声をかけてアルバムをもってきていただいている。	エアコン、クローゼット、テレビ台、電動介護ベッドが各居室にそなえつけてある。リビングの周囲を囲む形で居室が配置され、トイレの数も多く、居室から近いところを自分のタイミングで利用することができる。希望されてカーペットを敷いて布団で休まれる方もいる。家族アルバムは協力いただける方には積極的に持ってきてもらっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所がわかれば一人で行動することができる方のために、案内を見やすい位置につけたり、戸惑う方には区別をつける工夫をとりいれたりしている。		